



Choose Your Life!

「人生は選べる」
・・・そんなわけじゃないか。

どこで生まれるのか、
どこで育つのか、
誰と出会うのか。
自分で選べないことが、
自分の人生を決めている。
この世界は不平等だ、
そう思っていた。

だけど僕たちは、
今を、未来を、どう生きるかは、
いつだって自分で選ぶことができると知った。

もちろん人生には、自分で選べないこともたくさんある。
事実はひとつでも、解釈は無量大。
僕たちは、自分の人生を、自分で選んでいく。

だから今、僕たちはこう言える。
「それでもなお、人生は選べる」

“選べる”を信じる、
僕らとあなたの
集合場所へ。



一般社団法人 HASSYADAI social
年次報告書 2023

Choose Your Life!

それでもなお、人生は選べる。

「Choose Your Life!」を掲げて生まれた HASSYADAI Social.

すべての若者が自分の人生を自分で選択できる社会は、
あなたにとって、僕らにとって、どんな場所だろう。

何をしたいか、どうありたいか、誰とどこにいたいか。
自分の選択にどんな価値があるかは、自分だけにしかわからない。
でも、それがいい。

社会のため、なんて大きな荷物を背負わなくても、
あなたが元気になることで、前を向ける人がいるかもしれない。
そんな人がひとり、またひとりと増えていく。

ほら、社会はいつだってあなたの未来から変わっていく。

VISION Choose Your Life! それでもなお、人生は選べる。

MISSION ひとりひとりの“元気”をあきらめない。

VALUE positive / physical / playful



代表理事 **勝山**

今年も全身、全霊、全力で駆け抜けることができました！振り返れば沢山の新たな挑戦を行った年でした。立ち止まるとき、悩むときもありましたが、この1年はこれからの未来にとっても重要な1年になったと思います。2024年は選択と集中！いつも本当にありがとうございます！



代表理事 **三浦**

「CHOOSE YOUR LIFE FES #18歳の成人式」や『騙されない為の教科書』、『HASSYADAI Teachers' Forum』に、出版…。たくさんことができました。みなさんの応援があったから、今年もたのしく走りきることができました！心から、ありがとうございます。



2023 news 01 Visionを刷新し、Valueを策定しました！

これまで「Choose Your Life - 全ての若者が自分の人生を自分で選択できる社会を実現する。」というビジョンを掲げていましたが、2023年12月に「Choose Your Life! それでもなお、人生は選べる。」というビジョンへのアップデートを行いました。また、ビジョンの実現のために私たちが発揮する価値をValueとして決めました。高校生若者の「ひとりひとりの“元気”をあきらめない。」の実現のために、私たちが大事にしたい考え方をまとめました。

positive

常に前向きに物事を捉え、
未来のためのアクションを通じて
元気を生み出す。



physical

情報だけではなく、移動や対話といった
体温のある活動を通じて
元気を生み出す。



playful

社会的な役割や意義にとらわれすぎず
楽しく創造的な事業を通じて
元気を生み出す。



2023 news 02 コーポレートロゴを刷新しました！

ビジョンのアップデートに伴い、ロゴの刷新を行いました。それでもなお人生を選んでいく、と思えるような機会をつくりたいという私たちの意思、空に高く伸びる発射台、そしてハッシャダイソーシャルの頭文字「ハ」をモチーフに、コミュニケーションが活性化させられるようなシンプルなロゴにリニューアルしています。

LOGO



ハッシャダイソーシャルに関わる人・コトは、日々急速に広がっています。でも、どんな場所でも、どんな人たちとでもはじめかたは変わらないはず。まずは目線を合わせること。そして、一緒に楽しむこと。他人ごとではなく、自分ごと。若者も、大人も、日々挑戦している場所。関わることで、自然と顔があがる。気持ちも体も上を向ける。

STORY

HASSYADAI social Vision Map

HASSYADAI social は、経済的困難や生まれ育った地域といった外的要因だけではない、“それぞれの選べなさ”と向き合う団体です。かたちは違えど、すべての人の心のなかには、あたたかな灯火があると私たちは信じています。その灯火は今日の喜びや悲しみを味わう心であり、未来を想像し選ぼうとする心です。ときには風にさらされ消えかかってしまうこともあれば、灯し方が分からなくなることもあるでしょう。私たちは、自分の火を灯しながら、灯りとなり、熱となり、ともに迷う仲間として、“あなたの元気の力になりたい。そうすれば始まるものがあるはず。”という想いで、活動しています。

お仕事図鑑 # 照らす

様々な業界、企業、ひとの伝統、文化、志を次世代の高校生に継承していくワークショップを提供しています。興味のある業界、企業、ひとと出会ったら、弟子入りもできるプログラムです。知らなければ、選択はおろか、興味を持つことさえできません。様々な出会いを通じて選択肢を知るとともに、主体的な選択をサポートしています。

スナックハッシャダイ # 薪をくべる

高校生や若者に、日々向き合う先生方の、明日の元気と活力をチャージする場所です。ゆるく集い、語り合い、分かち合い、支え合う。スナックという場を通じて、先生の心に薪をくべる居場所を作っています。

ヤンキーインターン # 灯す

困難な状況にある18-29歳の若者を対象とした半年間のインターンシッププログラム。東京での住まいとともに、社会人として必要なスキル・考え方を学ぶ研修と、仲間を無償で提供し、自律的な進路選択を支援します。

講演 # 照らす

全国の高校や児童養護施設、少年院などで、高校生若者に「Choose Your Life!」のメッセージを届けます。それぞれの状況やニーズ、“選べなさ”にある背景に合わせたメンバーが現地またはオンラインで講演を行います。

project:ZENKAI # 灯す

「一歩踏み出したい」そんな15-18歳の若者を対象としたオンラインプログラム。社会人や大学生もメンターとして参加する場で、自分や他者の「らしさ」を対話で見出しながら、チャレンジへの背中を押しています。

CHOOSE YOUR LIFE FES #18歳の成人式 # 灯す

成人を迎えた18歳の若者たちに向けて、自分の人生を自分で選んでいくための「人生のお守り」を手渡していきます。ライブ、ゲストトーク、対話を通じて、種火を点し、育て繋がる。未来を開き、未来を支える成人式です。



私たちが解決したい課題

高校生や若者の“選べなさ”にある背景のうち私たちが解決に取り組むのは次の2つです。

01 経済や生まれた地域などの構造の課題



日本では、地域によって学力、進学率、就職率、所得などに明確な差があります。生まれた家庭環境の経済状況でもそれらの差は生じるとともに、学校外の教育や体験活動の機会の差分にも繋がり、これらは「教育格差」や「選択格差」と呼ばれています。地方にいるから選択肢がない。経済的に困難だから選べない。環境は変えられないかもしれないけれど、一歩踏み出すと出会えるひと、機会がある。1人ひとりの可能性が閉じていかぬよう、私たちは全国の高校生や若者、教育機関にアプローチします。

02 心の中の「自分にはできない」の障壁の課題



キャリア(≒未来)の選択において鍵とされる「自己効力感」。自己効力感とは「自分ならうまくできる」と自分の可能性を認知している状態を指し、進路選択だけではなく、粘り強さや打たれ強さに繋がるとともに、幸福感を高めると言われています。一方、内閣府の調査では中高生の半数以上が「自分はダメな人間だと思ふことがある」という意識であることが明らかになっています。私たちは、若者の心に火を灯し、背中を押す存在であるとともに、安心して挑戦と失敗をできる機会と居場所をつくります。

HASSYADAI school

STAFF COMMENT 森本



ハッシャダイス쿨は様々な場所に足を運び「人生は選べる」と思える体験や出会いを届けています。高校生がこれまで知らなかった生き方や働き方、職業と出会い、興味をもった高校生が一步を踏み出せるような体験を高校の先生方と一緒に届けます。こんなに楽しく人生を歩んでいる大人がいるんだと思ってもらえるよう、これからも「自分を信じてくれる、自分の心を動かすような大人との出会い」の価値を信じて、機会を全国に届けていきます。

01 Choose Your Life 講演 #寄付型



活動概要

「どんな環境からでも、あなたは人生を選べる。」というメッセージを、全国の高校や少年院、児童養護施設に講演形式で無償で届けます。研修を受けたスタッフからニーズに合った講演者を選定し、現地またはオンラインで実施しています。

活動の目的

1人でも多くの若者に、様々な生き方やロールモデルとなる大人との出会いを届け、「自分の人生を選べる」と自信をもって思える未来をつくっていきます。講演を通じて、自己選択の大切さや挑戦のきっかけづくりを目指しています。

2023年度のトピック・2024年度の目標

2023年度はより広く講演を届けることを目標にし、結果、2万人超の高校生に「Choose Your Life!」を届けました。満足度も90%を越え、なかには project:ZENKAI や18歳の成人式の参加など、一步を踏み出した若者もいます。来年は取組数だけでなく、高校生の様々な選択肢や出会いと、背中を押す環境作りに注力します。お仕事図鑑や project:ZENKAI など別のプログラムへの導線を工夫したいです。

02 お仕事図鑑 #企業協賛型



活動概要

『「知らないから選べない」をなくす。』をテーマに、様々な業界、多様な大人の志や職業観との出会いを通じて、「Choose Your Life! = 自分の人生を主体的に選択できること」を目指すキャリア教育プログラムです。

活動の目的

学校生活だけでは出会えない“カッコいい大人”を知り、自身の持つ選択肢と可能性を広げます。業界や職業だけでなく志や想いを知ることで、自身の生き方について考え、学校以外でも相談できる大人との関係を増やすことを目指しています。

2023年度のトピック・2024年度の目標

2023年度は、保険、介護、電気工事など10業界以上の企業様のご協力のもと、多様な業界の知識やそこで働く大人との出会いを高校生に届けることができました。また、これまでは通信制高校のみでの実施でしたが、公立高校を含め、全国様々な高校に年間45回プログラムを提供しました。来年度は、さらに多くの高校へのプログラム提供を目指すとともに、さらに興味や関心を育む会社見学や座談会などの機会を増やしたいです。

焚き火企画



焚き火を囲みながら、高校生とともに大学生や多様な大人が人生について対話する焚き火企画。2023年は、株式会社鈴木商会のご協力のもと、北星学園余市高等学校で秋冬2回実施しました。高校生からの「将来が少し楽しみになった」「自分の進路の参考になった」などの感想に加え、ゲストからも自分自身の仕事のやりがいやキャリアを振り返るきっかけになったというコメントがありました。

キャリア支援活動

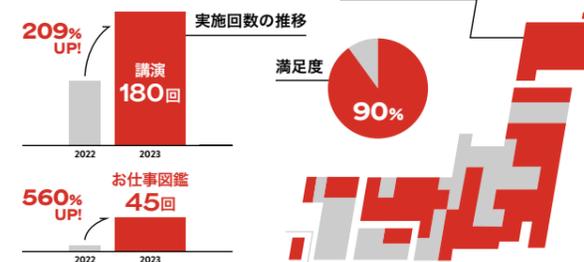


お仕事図鑑で業界や企業に興味をもった高校生が、より自分の興味を深められるよう、キャリア支援活動を実施しています。本年度の会社見学では、オフィスでの業務説明や、社員様のインタビューを実施し、実際に企業への入社を志望し内定を得た高校生もいました。求人票一枚の情報で、進路を選択せざるを得ない高卒就職。高校生の「働く」の解像度を少しでも高められる時間にしたいです。

ハッシャダイス쿨 2023年度の成果

Output

25都道府県 83校にて講演を実施



Outcome

お仕事図鑑では、業界のイメージが変化したという声や、働くことが身近に感じ、将来の不安が少なくなったといった感想が届きました。業界や企業に興味をもった高校生が、会社見学に参加し、働くイメージや進路選びのヒントになる取り組みを複数回実施しました。

VOICE 参加生徒の声



今日の講演は、自分の将来や目標を見つけるためのとてもいい勉強になりました！高卒でもつける仕事はあるのか、ほんとにこの仕事でもいいのか、自分に向いているのかと、不安だったけど日本にはたくさん企業があって、目標が見つからないのはそのほとんどを知らないからということを教えて貰ったので、私も自分の将来についてたくさん考えていきたいなと思いました。

環境とかの問題で諦めている人とか自分も、もしかしたらそういうことになるかもしれないけど、ちょっとしたことで、人生が大きく変わるかもしれない。人との出会いで変わるかもしれない。大きくなったときにそのちょっとした奇跡を信じて生きていきたいと、この講演で思いました。



物流のことについて初めて知り、仕事のやりがいを感じる場面は何なのかなど様々なことを聞きました。とても分かりやすく物流業界に興味を持つことができたため自分の人生の選択肢の一つを作ることができた体験でした。今後働くときの参考にもなりました。

先生方の共感、協力なくしては実現ができない HASSYADAI social の軸である「school事業」。都市部と地方部、進学校と進路多様校という環境の異なる現場で日々高校生と向き合う先生方と改めて高校生若者のイマについて考える。

Choose Your Life!の“純”なベクトルについて



横山大基 / 埼玉県立大宮高校 国語科教諭 協調学習マイスター。哲学科卒。よりよい世の中をみんなで作りたい。「生きのびる」だけでなく、「生きる」ための国語を日々模索中。叫んで、美味しい飯食って、風呂入って、よく寝る！それがだいじだともう。

藤井靖香 / 市立札幌大通高校 保健体育科教諭 キャリア教育推進部長 北海道出身。ドキドキとワクワクを感じられる仕事がしたい。大切なのは健康な心と体、そして人とのつながり。趣味はホットヨガと温泉。



北海道、埼玉、それぞれの高校生と悩みと

三浦 年度末のお忙しい時期にお時間いただきましてありがとうございます！お二方とも久々に会えて嬉しです。では早速、勤務されている高校の特徴を藤井先生から教えていただけますか？

藤井先生 大通高校は開校して16年目の比較的新しい札幌の市立高校です。午前・午後・夜間に分かれた多部制定時制高校で、全校生徒は1,100~1,200人ぐらい。進路も就職やアルバイト、国公立大学への進学まで、どんな進路も目指せるようなカリキュラムです。中学校まででの不登校の経験や朝から登校するのが難しい生徒、アルバイトをしたい生徒など様々な事情のある生徒が通っています。それ以外にも年間で30人ぐらい転入生を受け入れていたり、母国語での試験が可能なので年に5名ほど海外にルーツのある生徒も受け入れてます。私服校なので髪型やピアス、化粧の制限もなく、いろんな格好で学校に来ます。

三浦 では全日制の大宮高校についても横山先生おしえていただけますか？

横山先生 いわゆる進学校で偏差値は72ぐらいです。ご家庭もしっかりケアしてくれるケースが多いですね。埼玉は少し特殊で、公立でも男子校、女子校で分かれています。大宮高校はかつて男子クラス・女子クラスに分かれていましたが、約20年前に完全共学化しました。勉強一筋でがんばっている生徒もいますよ。

三浦 恵まれたご家庭の子もたくさん大宮高校と、どちらかというと様々な困難を抱えたご家庭や子どもたちの受け皿である大通高校。藤井先生と横山先生、それぞれ現場からみえる高校生のリアルな悩みをぜひ聞いて

みたいですよ。

横山先生 一生懸命勉強するのが価値軸の大半になっていて、それが心理的なプレッシャーになってしまっている状況があるのかなと思います。点数の1・2点、順位の1・2番で心から悩んでしまうことも。一生懸命で、本気だからこそ、まあどうにかなるかと割り切れない状況にはあるのかなと。

三浦 「いい大学に行かなきゃ」という価値観は昔からあると思うんですが、SNSや時代によっての変化は感じますか？

横山先生 あります！受験アカウントとか受験コミュニティが SNS 上にあって。自分と違う環境のところに飛び込むのではなく、置かれた状況をより煮詰めた空間に入って、考えを強固にしてしまうみたい。

三浦 友達の努力をモチベーションにするために、そのコミュニティに入ったらみんなが勉強しているのが見えて疲れてしまうという…。藤井先生はどうですか？

藤井先生 高校に来てる目的がそれぞれなので、1,000人いたら1,000人違うんじゃないかと。教員では図り知れない生徒の悩みはいっぱいあるんじゃないですかね。

三浦 先ほどの話で、SNSの登場でなにかこの10年で変わったことはありますか？

藤井先生 私はこの学校に10年勤務してるんですけど、大して変わらないかなって。昔のように表だって悪いことをする子やわかりやすい非行とかはないですよ。みんなとってもいい子なんですよ。

三浦 社会全体の傾向として、2022年の高校生年代の自殺者数が過去最多になるといったデータもこの数年で出てきましたが、それは調査によって顕在化したくらいの感じですか？

藤井先生 大通高校が倍率のある定時制でいられるのは、多少関係しているというか、ニ-

ズがあるんだろうなと思います。あとは定時制や通信制に対して、世の中の抵抗感は減ったのかな。高校を4年で卒業する生徒も少し増えていて、生徒も親御さんもみんなと一緒になくても自分のペースでという考えもあるように思います。

三浦 点数で悩むという状況とは少し真逆にも感じていて。そのあたりはどうですか？

横山先生 自分の内側から自分のペースで「がんばろう!」、と思えるのはすごくいいですね。生徒が社会通念を守らなきゃと思わずに苦くなるケースもあるので。それだけじゃないんだよって言える場があるのはすごくいいと思いますし、どう伝えるかはいつも悩みます。

三浦 大通高校はその伝え方のバランス感覚があるというか。

藤井先生 放っておくという感じはないんですよ。学校に来なかつたら電話はするし、ホームルームや行事も一応あるし。

横山先生 その緩やかな連帯が生徒の心の柔らかな拠り所になるんですね。

ハッシュダイソシャルの役割

三浦 僕たちとの取り組みについてもお話したいです。こんな怪しいヤツらに(笑)、どんなピースを期待して依頼して下さってるんですか？

藤井先生 教員ではできない話をしてもらえるようになって思ってます。それぞれ色々あるかもしれないんですけど、教員って学校に順応して、経済的にもそこそこ恵まれて大学を出た、真っ当な人生を歩んでいる。でも生徒は別に大学に行くことも、学校に来るのも当然と思っけてない。そこで私たちが喋っても意味ないだろうなと。生の話を聞かせてくれる年齢が近い人が私は必要だと思ってたんですよ。

三浦 なるほど、ちょうどいいやつらだと。

藤井先生 午前・午後・夜間で生徒の毛色がちょっとずつ違うことも見極めて講師を選定していただけるとところとかも、いいなって思います。

三浦 僕らも誰のどんな言葉が届くんだろうっていうのは気をつけているので、それを喜んでいただけるのは嬉しいです。先生からも午前は三浦さん、午後は森本さんって依頼をくださるのも嬉しい。

藤井先生 それは私だけではなく、うちの先生方も生徒に聞いてもらいたくて必死で考えています。毎年ずっと聞いてますけどちょっとずつ話が違ってますよね。

三浦 僕らも変わり続けているよと。いやあ、嬉しい。当初は進路多様校にロールモデルとして呼んでいただくことが多かったんですけど、この数年で進学校からのご相談も増えて。それがまさに大宮高校でもあるのですが、横山先生は何を期待してくれているんですか？

横山先生 最終的にほとんどの子は大学受験をするので道としては講演前後で変わらないかもしれないんですけど、ハッシュダイソシャルの話をお聴くと、それがなんとなく乗ってたルールから、ちゃんと自分で選んだ道になり、そして気が楽になっている感じがします。講演で外の世界を知り、ここ以外にも道があるって思えて気持ちが軽くなるんです。最初の取り組みでは高校3年が志望校を決めた10月に、学歴や仕事など多様な人をたくさん呼んでもらいました。講演後に一部の生徒がゲストそれぞれに話を聴きに行っていて。そこで残った子たちは卒業後に「あの講演が面白くて自分が選択肢を与えられたときの選び方が変わりました。」って話してくれました。大学生になってからも影響している講演ってあんまりないと思います。

僕らの魅力？

三浦 もっとくれみたいになっちゃうんですけど(笑)、僕たちにしかない魅力があるとしたらそれは何だと思いますか？僕らも分かってなくて教えていただきたくて…。

横山先生 僕はChoose Your Life!というメッセージが大きいと思います。普通、団体の理念ってその団体が実現したい社会像に目標を置くと思うんですけど、Choose Your Life!は子どもたち自身に向かっているというか。

藤井先生 たしかに。正解はこれです、という専門知識に基づいた講演ではなく、ハッシュダイソシャルは、受け取る子がどうするかを決められるんですよ。あとは学校事情ですけど、無料なのも魅力。

三浦 この記事を見てくださる支援者の皆さまあつての活動ですが、藤井先生から、例えば給食費さえ払えないご家庭から先生たちがさらにお金を集めるってストレスがかかるから、結局プログラムを導入しても継続できないという話を聞いて、僕らは学校から費用をいただかないことを決めました。先生たちにはいろんな障壁があるから、せめてお金の壁はなくして先生たちのチャレンジをサポートしたいって。

横山先生 別の話ですが、スナックハッシュダイソシャルの存在も魅力。教員同士だったり、東大の教授の方やミアヘルサの社長さんと繋いでいただいて。お二人にはその後、学校で講演していただきました。生徒だけでなく僕自身、教員自身にも外の社会に繋がる窓を見せてくれるのがありがたいです。

三浦 生徒の日々の顔色を見て声かけしてっていうことは僕たちにはできない。一方で、先生たちは外部のひとと会いづらいくけど、僕たちは仕事上、出会える。そういう役割は意識しているつもりです。

横山先生 先生ラブ！学校リスペクト！とこちらにも託してくれるのがいいんですよ。

藤井先生 うん、そうそう！こっちの事情を汲んで、教員を立ててくれるんですよ。

三浦 無償だからこそ、先生は営業相手ではなく仲間。支援者の皆さんのおかげで、若者のことを100%で考えられるのは、あるのかなって思いました。

横山先生 だから“純”すぎて怪しいのかもしれない(笑)。

最後に、リクエスト

三浦 これからのハッシュダイソシャルへの要望も最後にぜひ！

横山先生 学校とタッグを組む仕組みがほしいです。僕の仕事ではあるんですけど、僕が異動したら講演がなくなるリスクがある。仕組み的になにか繋がりを持ち続けられるシステムがあれば。あとは元気でほしい(笑)。

藤井先生 講演に来てくださる皆さんも年を重ねていって。でも、生徒の年齢層はずっと変わらない。最初22、3歳で講演に来てもらったときと、いまが違うように、あと5年経ったらどうなるんだろうって。同じものは求め続けられないのかなと。でも、ハッシュダイソシャルはハッシュダイソシャルであってほしいというか。私たち教員も20代の時に出来たことと、40歳を過ぎてからの生徒への向き合い方って全然違うんですよ。距離感が違う。その距離感なりのハッシュダイソシャルでやってほしいです。

三浦 ありがとうございます。まさに僕らの課題と大事にしたいことを両方言っていたいて。お前たちがお前たちであり続けるってことを期待し続けていただけるとのはめっちゃくちゃ嬉しいです。大宮も、北海道もまたちゃんと行きます。

03 フルサトクエスト

with 愛知県豊田市

#行政受託モデル

活動概要

豊田市産業労働課、豊田市雇用対策協会、愛知労働局と共同で春・夏の年2回各3日間で高校生向けインターンシップを実施しています。高校生が地元企業を取材・撮影し、企業の魅力発信ができる動画作成を行います。

活動の目的

プログラムを通じ、高校生が自己理解や企業理解の解像度を高め、離職率の低下、ミスマッチの是正を目指します。地元企業も、自社の魅力を発信する機会になるとともに、豊田市としても地域雇用確保による雇用安定の実現を目指します。

STAFF COMMENT 伊邊

愛知県豊田市は僕たちが生まれるずっと前から、製造業とともに育まれた街です。だからこそ、進路選択に対する視野の狭さや、風潮といった課題を顕著に感じてきました。今後も、僕ららしさ溢れる新鮮なアプローチを展開していきます。



2023年度のトピック・2024年度の目標

今年度、過去4年分、のべ51社の動画をまとめた専用ページを作成しました。またページを活用し、動画の視聴や印象や感想を記入して学習を進めることができるワークシートを開発しました。豊田市内の高校4校に活用いただき、長期休暇中の課題や進路に関する補習に使用する動画教材として利用されています。

事業による成果

6回の実施で51本の動画を作成し、**ONLINE JOB TOUR in とよた**に掲載

VOICE 参加生徒の声

たくさんの人と関わることができて、自分のコミュニケーション能力をあげることができた。

自分の将来には無いし、考えたこともない選択肢を今回この機会を知れて、すごく心から楽しそうに仕事をして、私もそんなに大人になりたいと思いました！

04 ヤンキーインターン #営利モデル

活動概要

18-29歳の困難な状況にある若者を対象とした半年間のインターンシッププログラム。東京での住まい、社会人基礎力や営業スキルを育む研修、人生を通して信頼できる仲間との出会いを無償で提供し、進路選択をサポートします。

活動の目的

経済的困窮や社会的孤立などの困難な状況にあり、現状を変えたいと思っている若者の自律的な進路選択と経済的自立を支援。非正規から正規への転換率の低さからも見えるドロップアウトした場合の再挑戦の困難さを解決します。

STAFF COMMENT 玉城

再開に合わせて、自身も地元沖縄から東京に引っ越しました。生まれた地域、学歴に関係なく「移動体験」を通して人生の選択肢が広がる本プログラムをより多くの若者たちへ届けられるよう次年度も邁進していきます。



2023年度のトピック・2024年度の目標

コロナ禍を機に休止していましたが、2023年11月より再開しました。インターン生が滞在できる住居を関東近辺に確保しています。2024年2月に、再開後初のインターン生1名が上京しました。次年度は受入人数を拡大できるよう、まずは認知拡大から取り組みます。

支援のカタチ。

夢の実現を傍で見ると

協賛とは、薪。

ヤマト電機株式会社

代表取締役社長 / 中嶋冬彦様



HASSYADAI social / 勝山恵一

期待と裏腹の、「お前は誰だ？」の最初の出会い

勝山 改めて、出会いから振り返ってみたいのですが、2019年の設立前ですよ。

中嶋 いつもどおり日経新聞を見ていたときに、ヤンキーインターンの記事を見て、採用のバリエーションを増やしたいなと思ってたときで、これいいな、すごいなって。それで問い合わせしたら「行けて半年後ですな」と言われたので、冗談じゃないよと(笑)。当日担当が体調不良で代打で現れたのが勝山さんで、オイオイ、日経に出てたじゃないかと(笑)。その後、見学にも行って、ヤンキーインターンでの連携が決まり、企業説明会、対話会も開きました。面接にも来てもらったものの人事で通らず。ヤンキーインターンを継続すべきか悩んでいたところで、学校講演の寄付の提案があったのかな。その時点では、問い合わせ当初の目的は無くなっている。これまで話していた勝山さんと三浦さんがモヤモヤしている理由が分かったというか。本当にやりたいのはこれだったのかと腹落ちして。

勝山 メディアをきっかけに問い合わせをくださった方々は、ヤンキーインターンを通じての採用という目的があり。脳裏には、社内で予算を失くそうと話題に挙がっていた講演を続けていきたいと思い、どうすればいいかわからない自分がいて。中嶋さんは、お会いするたびに問いを投げてください、本当にありがたく感じています。

だよ。興味が無さそうにしている方が相談ができるようになるという持論があるんです。いい意味で興味がない。「だからいい」というポジションなのか。
勝山 そんな上手なひととの距離感はどうしたら手に入れられるんでしょうか。
中嶋 自分は父親を亡くしていて、教えてくれる人もいなかったし、手探りでやっていくしかなかったから。いいこともあったけど、いやな出会いもたくさんあるなかで、反面教師をたくさん見て、それで自分を形成していくという、そういうところなんですかね。

応援したい若者と、その先に存在する高校生

勝山 中嶋さんの問いかけのおかげもあり、2020年のハッシャダイソーシャルとの設立に繋がっていきました。ちなみに、協賛や寄付にもいるんな選択肢があるなかで、なぜ私たちを支援くださったのでしょうか？

中嶋 これをしたいという明確な想いがあった、それを応援しますという単純な話です。社員でもやりたいという声があることは嬉しいし、自信を持てるようにしたい。ただ、やりたいと声をあげることが勇気があること。これがやりたいんだと強い気持ちで言えるひとは元々好きなんです。

嶋さんはテルヤ電機さんもご紹介くださっています。
中嶋 ひとにひとを紹介するってすごく気を遣うんですよ。江川社長は本当にひとが良いのと、高卒採用に積極的であったので頭に浮かんで。採用目的のだけだと難しいかもしれないけれど、交わる場所がありそうじゃないんじゃないかと、紹介しました。
勝山 ハッシャダイソーシャルへの寄付には、明確な見返りもないなかでそこまでしていただくのは本当にありがたいです。
中嶋 寄付しつづけている企業は何かしらのリターンがあるんでしょうね。元々、1、2人の力には限界があるし、ハッシャダイソーシャルも組織化したほうがいいという話はずっとしていたんです。で、実際に、彼らの活動の幅が広がって始めて、惚れ込んだひとの想いが形になる変遷を間近で見られたことは、リターンって言うことと変だけども、まあ嬉しかったですよ。
勝山 直接言われると嬉しいです。
中嶋 本人を目の前に言うなんて恥ずかしいな(笑)。ハッシャダイソーシャルの社会的影響の話というわけでもないんだけど、20、30代が活躍する社会になったほうがいいと思ってる。たとえフィールドが違って、勝山、三浦という2人の若者、同世代がやりたいことを熱意を持って形にしていることが、20代にとっては刺激になるんじゃないかなあと。限られたメンバーにはなっているけど、うちの社員も引き合わせてみると、やっぱり刺激を受けてるんだよ。まあ、社員だけでなく私も、頑張らないとなというプラスにもなっています。

05 KAZAANA PROJECT

#行政連携モデル

with 京都市児童養護施設長会



活動概要

京都市児童養護施設長会と連携し、京都市内の児童養護施設の高校生年代の若者を対象に新たな出会いや、様々な学び・体験と一緒に楽しみながらキャリアサポートを行います。また、施設を出た後も頼れるコミュニティとして存在します。

活動の目的

経済的困窮など、社会的に孤立しやすい環境にある子どもたちは、旅行や習い事など学校外の文化体験、多様な大人との交流の機会などが十分に得られない場合があり「体験格差」と呼ばれています。このような体験は、自尊感情や生きがいに対してポジティブな影響を及ぼすことが明らかになっており、子ども若者の成長にとって不可欠であると同時に、人生の中でお守りとなる繋がりを育むことを目指しています。

▼ 消費者教育 出張授業の様子



▼ 消費者教育 出張授業の様子



2023年度のトピック・2024年度の目標

今年度は、京都出身である代表理事 勝山のオンライン講演会に始まり、8月には会社見学を行いました。高校生が保育業界へ関心があったため、株式会社ミアヘルサ様のご協力のもと、京都から新幹線に乗り、東京都港区の施設の見学や、園長先生への対話・インタビューの場を設けました。施設で過ごす子どもに限った話ではなく「働く大人」を見る機会は実は少ないです。知ることで、興味や関心が広がり、未来に対する想いや解像度が深まる時間になりました。また、関心があるものや進路に必ず効果を生むものではないことも、心の豊かさを育むうえでは重要だと考え、妙徳山華厳寺での説法体験会や、ピラティスといったイベントも実施しました。2024年度もまずは活動を継続し、様々な体験の機会をつくってまいります。

STAFF COMMENT 勝山

児童養護施設で育つ若者はいずれ、施設から卒業をして人生を歩んでいきます。現在の法律では、原則18歳で退所し自立して生活することが必要とされています。一方、大学進学後の中退率や離職率は一般進学者・就職者に比べて高いなど、退所後の制度や支援は十分とは言えません。私の友人も同じように施設を出て人生を歩み、挑戦をしていました。様々な悩みや葛藤を抱えながらも施設を出て就職したものの、ミスマッチが起こってしまい、早期退職を余儀なくされました。その後、友人は誰にも相談することができず、連絡がとれなくなってしまったという経験があります。

KAZAANA PROJECT は、これからも出会いや学びをつくり、若者が社会に出てからも帰れる場所、繋がりとして存在し続けたいです。興味を持っていただいた方は、ぜひご寄付や体験の機会提供で私たちと一緒に若者を支援する仲間になって頂きたいです！

06 消費者教育

#寄付型
#企業協賛型



活動概要

若年層をターゲットにした詐欺や悪徳商法に関する「騙されない為の教科書」を制作し、全国の若者への無料配布、出張授業を行いました。詐欺や悪徳商法の実態や、被害に遭わないために注意すべき点、万が一被害にあってしまった場合の対応を学ぶことができます。

活動の目的

10-20代の若年層をターゲットにした詐欺や悪徳商法の被害が増加しています。成年年齢の引き下げにより、クレジットカードの発行やスマートフォンの契約が18歳以上は自身だけででき、18歳以上であれば親の同意を得ていない場合も原則、契約を取り消しできなくなったことなどが背景として挙げられます。こうした現状を受け、少しでも若者の被害を減らすべく本取り組みを開始しました。

2023年度のトピック・2024年度の目標

講演活動で出会った高校生から詐欺被害に関する声を聞くようになり、本年度開始したプロジェクトですが、高校だけでなく児童養護施設や子ども若者を支援する団体、行政などの皆さまとの連携の機会をいただき、17万部の教材の発行を行いました。予想を超える反響をいただき、本取り組みの重要性をより感じております。

事業による成果

Output

- 2023年6月 教材の無料配布の申込みを開始し、10万部配布の当初目標を8月に達成
- 2023年6月 和歌山県教育委員会より、県内の高校全61校・24,633名へ配布
- 2023年7月 愛知県日進市内の小中学生約10,000名に電子書籍版を配布
- 2024年1月 福島県教育委員会より、県内の高校全81校の3年生12,115名へ配布
- 2024年3月 1,390箇所・177,866部に配布が完了

Outcome

47都道府県 1,390箇所へ
177,866部の教科書を配布

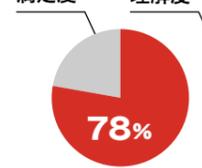
※内、高校726校158,936部



- 掲載メディア
- テレビ朝日「報道ステーション」
 - 日本経済新聞
 - 教育新聞
 - Yahoo! JAPAN SDGs

24校へ出張授業

4都道府県でのアンケート結果



STAFF COMMENT 吉田

自分の人生を自分で選ぶという前向きで純粋な気持ちを、無情にも引き裂いていくのが、詐欺や悪徳商法の魔の手です。消費者教育の専門ではない私たちですが、若者と近い目線で「どういう内容なら読んでもらえるか」「どういう講演なら聞けるか」を日々考えています。少しでも若者の被害を減らせるように、これからも教科書の100万部配布を目指してがんばってまいります！

07 project: ZENKAI

with トヨタ自動車

#企業連携モデル



活動概要

トヨタ自動車株式会社と共同で開発・提供している、全国の15-18歳の若者を対象としたオンライン対話型プログラムです。私たちが活動を通じて出会ったかっこいい大人との出会い。自分らしさや、お互いの可能性を再発見する多様な他者との対話。本当の気持ちから生まれるやりたいことへの挑戦。心理的安全性の高いコミュニティのなかで、人生を自己選択していきける環境を参加費無償で提供しています。

活動の目的

私たちが向き合うのは、従来の教育・採用活動で用いられてきた「学歴・偏差値」といった指標ではなく、プロジェクトに関わる1人ひとりが持つ「可能性」です。学歴や偏差値、性別、皮膚や目の色などで、人のことを勝手にわかった気にならない。1人ひとりが持つ可能性に向き合い、絶対的に信じ、応援する。そんな新しい「人との向き合い方のスタンダード」を未来に渡すことで、全ての人が自分の可能性を信じて、生かすことができる社会を目指しています。

STAFF COMMENT 高宮

project:ZENKAIの中心には、可能性を諦めずそれぞれのペースでそれぞれの向き合うべきことに向き合っているメンバーたちの熱量が灯火のように存在しています。「カイゼン」を続けてパワーアップしていくproject:ZENKAIで、参加してくださる1人ひとりと、出会い、挑戦し、未来を共創していくことを楽しみにしています！



2023年度のトピック 2024年度の目標

2023年度は、より多くの機会を届けるため、高校生年代の参加のハードルを下げられるよう、1年に2回(7月~9月・1月~3月)のプログラムの提供を行いました。同時に、そこに集う参加者・TA・メンターの声を聞き、プログラムを「カイゼン」していくことにも努めました。結果として、海外を含むより広範な参加者募集の実現や、プログラムへの高い満足度の維持、途中離脱率の低下、そしてメンターを含むメンバーとの関係の深化に伴う様々な企画の種蒔きができた1年となりました。2024年度は、これまでの3年間の積み重ねを活かし、プログラムの卒業生・過去のTA・メンターを巻き込んだコミュニティの活動の充実、さらには社会的に意義のある調査研究や発信にも力を入れていきます。

事業による成果

これまでに4期のプログラム実施を行い、高校生年代の若者約300名に加え、大学生年代のTA(ティーチングアシスタント)約60名、社会人メンター約30名と、自分の人生の「カイゼン」を常に続ける「ゼンカイ」な仲間を増やしてきました。この仲間たちは、ハッシュダイソーシャルの他のプロジェクトやイベントにも参加して活躍してくれていたり、それぞれの道を進みながらも、その道中で得た成果を持ち帰って共有してくれたり、次の世代に刺激を与えてくれたりと、僕たちの活動を影に日向に応援してくれています。そんな優しく、温かくて、ありがたいつながりを、お互いが大切にしつつ、少しずつ広げていくことが、「全ての人が自分の可能性を信じて、生かすことができる社会」の実現につながっていくと信じています。



ZENKAI魅力大解剖!

2021年のプロジェクト開始からはや3年。
1期からこれまで参加する若者1人ひとりを支え、
ZENKAIのすべてを知る!? オトナたちに改めて、
ZENKAIの魅力について聞いてみました。



MONA

ひとの気持ちに触れて表現するフォトグラファーとして活動。ZENKAIではメンターとして、またschool事業でも講演に関わる。

キャワ

サービス業のDX推進を本業にするピアニスト。大学院で社会学を専攻していた経験を活かし、ZENKAIの前身となるオンラインプログラムから参画。

ハヤテ

香川県に移住し、暮らしの交通株式会社を設立。ZENKAIでは、1期からこれまでプログラム設計などを担当。3期ではメンターも兼務。

インタビュー／高宮大史 (HASSYADAI social)

関わり続けてしまう、project:ZENKAIの魅力とは？

ハヤテ 講演で出会った高校生が一步踏み出す「ハシゴ」の役割になっているのがいいですね。「なんかしたい」で終わらず、可能性を迎えに行くところ。実際、前に踏み出す恐怖がなくなっていく高校生の変化も目の当たりにして、みんなすごいなって思ってます。

キャワ 偏差値とか居住地とか、見えない境界を取り除いて、いろんな人と出会えるのが素敵です。でも、そもそも楽しいから関わってます！

MONA 私も楽しいです！高校生が変わろうとする姿、変わっていく姿を見て、自分の心が震えて嬉しくて、それがパワーになって、関わり続けています。

ZENKAIの若者と関わるなかで工夫したことやこだわったことは？

ハヤテ プログラムの設計者としては、一時的な元気を生み出すだけのものにはしたくなくて。卒業後も、チャレンジを応援するとか、困ったときは助け合えるとか、そんな繋がりをどうデザインするかを考えています。これから「ZENKAIなひととマップ」とか作ってみたいな。

キャワ マップいい！僕は高校生とメンターの大同窓会をしたい。それぞれでブース持ったりして、お互いのチャレンジを称賛しあって。費用は要相談で(笑)。

MONA メンターは先生じゃないから教えるわけじゃないって常に頭に入れて、常に考えて、常にアンテナを張って、考え続けるのが難しかったです。難しかったけど、自分も成長させてもらっているな、とも思いました。今後も、関わり続けることをやめないでいたいです！

CHOOSE YOUR LIFE FES

#18歳の成人式



自分は就職をしますが、いきなり同期に大卒や院卒の人たちがいてその中で仕事をしなければなりません。心の中では不安や心配だけでした。しかし、今回参加してみてお三方の話や三浦さんの話を聞いて選択肢はたくさんあって自分で選べる、自分で考えて進むことができるということを学びました。

今まで何となく生きてきた自分ってどうなのかな、とか小さなことで悩んできた自分がいたけれどそれでも今を楽しみながら自分を愛して自信を持って生きようとおもえました。本当に今回参加できてよかったです。この日があったから私は少し強くなれました！

まじでさっさうでした！バンドの演奏が聴きたくて参加したんですが、開会の言葉から閉会后、あとは最後のムービーからみんながハイタッチしてくれたところ、家に帰るまで楽しくて一生の思い出です！いろんな意味で新しい出会いがあったし、これからの人生が豊かになるきっかけに間違いなくまりました！最高のお守りもらっちゃいました！

「新成年の主張」でみんなの話を聞きながら思ったことは、みんな夢を持っていて、でも自分は何もやりたいことも目標もなく。そんな自分に焦ったり心配になりました。でも私は新成年の主張を聞いて一つ目標ができました！それはこういう場で手を挙げられるようになることです。私自身、とても恥ずかしがりやで大勢の前で立つことがとても苦手です。三浦さんは手を挙げない人もそれはそれでいいとおっしゃっていましたが、私は自分の思っていることをみんなに伝えられるような強い人間になりたいと思いました。なのでまたこういう機会があれば頑張ってみたいです！

Outcome

- 申込者数 **3,181**名
- 会場参加者 **462**名
- オンライン視聴者数 **693**名
- 来場者アンケート回答者数 **169**名
※回答率約36%

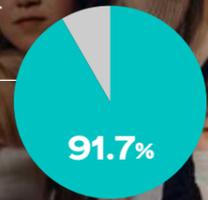
イベントの満足度を教えてください

- 大変満足：159名
- 満足：8名
- 普通：2名
- 不満：0名
- かなり不満：0名



現時点で来年以降、スタッフとして参加したいと思いませんか？

- はい：155名
- いいえ：14名



決して簡単じゃない人生を
18年も超えてきた18歳の若者たちへ。

きつと訪れるであろう人生のどうしようもなくしんどくなった夜に、この日を振り返って、もうひとふんばりできるような「一生ものの一瞬」を「人生のお守り」として手渡したい。この日の出会いが、自らで自らの人生を選んでいくための人生の突破口となつてほしい。そんな想いではじめた「CHOOSE YOUR LIFE FES #18歳の成人式」も本年で二度目の開催となる。来たる2024年3月22日。クラウドファンディングでの個人支援者や企業の協賛に支えられ、参加費無料、交通費補助を実現し、全国47都道府県から、のべ3000名超の応募から抽選で切符を手にした総勢462名の参加者が恵比寿ザ・ガーデンホールに集まった。

オープニングアクトを飾るのは「ハルカミライ」。情熱そのものがまっすぐ押し寄せてくる音楽に、会場にいた全員心が自然と開いていってしまう。トークステージには詩人の黒川隆介さん、編集者の小寺智子さん、プロボクサーの藤田炎村さんが登場。きつと、ここでしか重なることのない3人による、ここから生まれる言葉たちが18歳の胸にじんわりと届いていく。ワークショップやオープンマイクでは、会場にいる1人ひとりが、初対面の隣人へ、ポツリポツリと言葉を紡いでいる。「好きなアーティストが観たいから」「無料だから」「18歳だから」。入口はそうかもしれないけれど、たしかに、いまの自分とこれからの自分のことを、隣にいる仲間とともに見つめ直す18歳がそこにはいた。クロージングには新潟県上越市出身の3ピースロックバンド「My Hair is Bad」。やさしくかつこいロクンロールが、この瞬間を、言葉にしてみた想いを身体に染み渡らせ、強く温かく、たしかに背中を押してくれた。終了後のアンケートには、会場にいた1人ひとりの想いの丈が書き連ねられており、この時間は、たった一瞬のお楽しみではなく、絶対にこれからは繋がるはずだという私たちの祈りが、現実になることを確信した。

二回目だからといって決して簡単になることはなく、1500万円というクラウドファンディングは、締切直前の達成となり、運営準備も当日ギリギリまで苦勞が絶えない日々であった。たった1人欠けても、上手くいかなかった。様々な形で想いを寄せてくれた1人ひとりに、お礼を伝えたい。本当に、本当にありがとうございました。

HASSYDAI socialの活動は「自灯明」。自身を灯火とし、暗闇でも歩き続け、誰かの明かりになること。そう表現した誰かがいた。そうすると「18歳の成人式」とは何なんだろうか。寄付や協賛という支援で薪をくべ、火を、灯りを大きくしてくださる方がたくさんいる。去年、恵比寿ザ・ガーデンホールで参加していた18歳が、今年にはボランティアとして次の世代へ灯りを届けようとしてくれている。想像に及ばなかった気持ちのいい循環が、たしかにここに生まれ始めている。二回目が出来たから三回目もできる、なんて余裕もない。ここにいる18歳にとってはこの一回きりしかない。この日が18歳たちの「ああ、ここまで生きてこれたよかった」になりますように。これからの日々々に寄り添う「人生のお守り」になりますように。そんな祈りを込めた一回きりを、支えてくれたあなたに感謝し、また、精一杯、日常を歩き続けたい。

08 スナックハッシャダイ

#寄付型



活動概要

スナックハッシャダイは、日々、生徒を応援・支援している先生方が集まる場所です。ハッシャダイソーシャルがこれまで連携してきた学校の先生を中心に、全国の先生方や教育関係者、若者を応援したいと思う企業の方が集まり、ゆるくお話ししながら、明日への元気と活気をチャージしていただく取り組みです。

活動の目的

講演活動を通じて、若者を全力で支援する素敵な先生方に出会うなかで、多くの先生が悩みを抱えていることを知りました。キャリア教育に力を入れている先生が孤軍奮闘していたり、取り組みが共有や学びの場が少なかったり。そんな先生方の明日の活力を支える人との出会いや場をつくることを目的に、2019年に開始しました。



2023年度のトピック・2024年度の目標

本年は、月1回ペースでの開催を目標に実施しました。学校の先生だけではなく教育関係者や、若者や先生を応援したい企業の方々にもご参加いただき「混ざり合う」「生まれる」場になることを目指しました。3月9日には、ベネッセコーポレーション様のご協力のもと「スナックハッシャダイ in 岡山」を開催。東京以外での初開催となる本イベントでは、講演ゲストもお呼びし、北海道から宮崎まで約50名にご参加いただきました。これまでは関東での実施が多く、距離を理由に参加が難しい先生がいらっしやいました。2024年度、夢は大きく「スナックハッシャダイ全地方制覇」を掲げ、北海道・関西・九州での開催を目指します。各地域の先生方のご参加や企業様のご支援をお待ちしています。

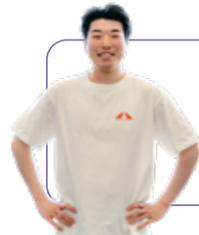
事業による成果

開催回数 **9回** オフライン参加者数 **365名**

本イベントをきっかけに、地域を超えた先生の繋がりに加え、先生と企業・団体との繋がりが生まれ、企業経営者と大学教授という組み合わせでのキャリア講演を2024年1月に実施することもでき、高校生からは「進路が決まらずこのままで大丈夫なのかとても不安に思っていたので、自信をもらえました!」という感想をいただきました。また、スナックハッシャダイに参加した先生方の発信をきっかけに、福島県、青森県の高校生に「Choose Your Life! 講演」を届けることができました。

STAFF COMMENT 森本

若者の「Choose Your Life!」を最前線で支える先生方がいるからこそ、僕たちの活動は成り立っています。今後も、先生や教育関係者、若者を応援する企業の方々が混ざり合い、自分の仕事に誇りを持てるような場にしていきます。



09 Hassyadai Teachers' Forum

#寄付型
#企業協賛型



活動概要

「HASSYADAI Teachers' Forum」は、先生をはじめとした教育関係者のみなさま向けの1day イベントです。多様なゲストをお招きしたトークセッションを通じて、私たちが教育現場で日々当たり前のようにつかっている言葉について、もう一度、考えなおす機会をつくっています。

活動の目的

課題が山積する教育現場の中でも、日々、最前線で生徒に向き合い続ける先生を、応援できないだろうか。先生が明日へのヒントを持ち帰れる場、「Choose Your Life!」するきっかけ、元気になる時間が、その先の高校生若者にもいい影響を及ぼすと願って、フォーラムの開催に至りました。

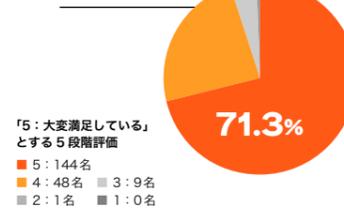
2023年度のトピック・2024年度の目標

2023年8月10日に、東京のDMM.com本社イベントスペースと、オンラインのハイブリッドで第一回目を開催しました。「話し合いではなく、聴き合いを」というコンセプトと「言葉を考えなおす。」というテーマのもと、株式会社ほぼ日代表 糸井重里さんや東京大学公共政策大学院教授 鈴木寛さんといった多様なゲストの方々にご登壇いただき、6つのセッションを実施しました。オンライン配信では、約2000近いコメントをいただき、コンセプトどおり、参加者の皆さんと一緒に「考えなおす」時間になったことを感じるとともに、この時間そのものに価値があることを再認識する時間となりました。次回は2025年に、地方での開催を目指しています。

事業による成果

申込者数 **2,941名** (会場参加は満員)

イベントの満足度を教えてください



イベントを通して、「明日から頑張ろう!」など前向きな気持ちになりましたか?



STAFF COMMENT 三浦

「先生を応援したい!」という気持ちでやってみたら、また僕たちが応援されてしまいました。こうして、人と人が応援し合う循環を生み出し続けられたらと、「HASSYADAI Teachers' Forum」を通じて実感しました。



VOICE 参加者の声



出会った人をすべての人生の主人公として接していこうと思います。学校の先生にも、親にも、相互に感謝を伝えられれば、子どもたちは豊かに育つかなと思います。

学校だけで抱え込まず、連携できる大人、組織と繋がっていると、教わる子どもが増えるのではないかと思います。学校を、教員を応援してくれる存在がたくさんある、そういうことをもっともっと教員は知らなくてはいけないと感じました。応援してもらいました。ありがとうございました。



ありがとう、 これからも、 3.5周年！ あなたと！



2023年9月16日(土)、窓の外に目を向け、視界を占めるのは大きな大きな東京タワー。そんな東京都港区に所在するDMM.com本社24Fイベントスペースにて、ハッシュダイソシヤル設立3.5周年の記念報告会が開催された。なぜ、こんなにキリの悪い数字なのか。それは、お礼を伝えるためにイベントを開催したいという想いのままスペースを予約し、イベントのコンセプトや内容を考えるうちに、設立3.5周年という事実が見つかった。だからタイトルにしてみた、というまさしく「ハッシュダイソシヤルらしい」理由である。

イベントでは、共同代表理事である勝山・三浦の掛け合いで、「これまでのハッシュダイソシヤル」を振り返った。まず最初に大きなモニターに映し出されたのは、一人のヤンキー。そう、過去の勝山である。どよめきのような笑いがおきる中、勝山・三浦の出会いまで話は遡った。高校を中退後、バイトと暴走行為やパチンコが生活を占めていた勝山・三浦の掛け合いで、小一時間、亀山会長に思いの丈をぶつけると、「まあ、頑張れよ」と、これまた何とも寛容すぎる言葉でその時間は終わった。

「今日、俺のところに若いヤツが話をしに来るけど、お前も来てみたらどうだ。」
亀山会長の一言に、断る理由はなく同行すれば、そこに久世がいた。ヤンキーインタビューを広く展開するため、熱く冷静に協力を要請する久世のプレゼンテーション。横にいた三浦は、自分がやりたかったことを奪われたようにも感じるほどの衝撃をうけた。その後、三浦は世界青年の船などへの参加を経て、トヨタ自動車を退職し、ハッシュダイに参画。いよいよ勝山と出会うわけである。その後、二人はヤンキーインタビューから卒をはみ出して、2019年頃より高校での講演を開始。メディア取材をきっかけに様々なご縁に恵まれ、「Choose Your Life」のメッセージを届ける活動を全国の高校や児童養護施設、少年院へと展開していった。

「不要不急」という言葉が大きく広がりはじめた。記憶にも新しいあの時期。例に漏れず、COVID-19による影響で変化を余儀なくされるなか、株式会社ハッシュダイとして行っていた講演活動を切り離す形で、2020年3月16日、勝山・三浦の共同代表で一般社団法人 HASSYADAI social を設立した。

以降も3.5周年を迎えるにあたって、多くの方々との出会いと支えでハッシュダイ

2015年、彼女の妊娠が発覚し、いい父親になりたい気持ちと生活への不安で揺れていたとき、義兄である久世の「いま変わらないなら一生変わらないよ」という一言と仕事の紹介で、訪問販売に挑戦することに。漢字も読めずに嘲笑をうける研修期間から始まるも、懸命な努力で全国一位の成績を収め、晴れて元ヤンは正社員となる。これをヤンキーインタビューのモデルとして、久世は株式会社ハッシュダイを設立し、勝山も運営に携わり始めた。

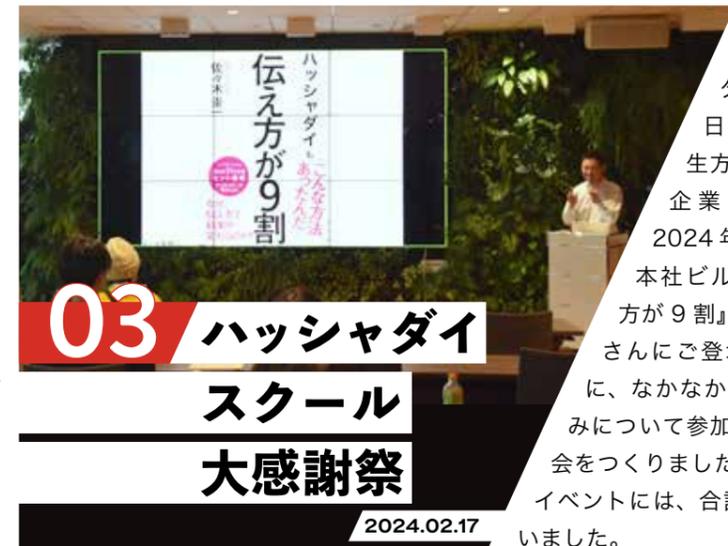
一方、家庭の事情で教員の夢を諦め、トヨタ自動車の工場に勤めていた三浦は2017年1月、SNSで見かけた『君に、大卒に負けない力』という言葉に惹かれ、DMMアカデミーへの応募をした。工場勤務の自分は志望動機だけでは通らないのではと考えあぐね、DMM.com 創業者の亀山会長への突撃訪問を試みる。六本木の本社、何とも寛容すぎるDMMアカデミー責任者沼野井さんが話を聴きながらアドバイスをくださり、そして



ソシヤルは育ってきたのである。親のよくな表情でイベントに参加して下さっていた方の多くが立役者。参加者にも当時のエピソードを聞きながら、短くも濃い軌跡をとともに振り返る。もちろん事前の予告はなく、急に指名し、マイクとざっくりとした問いを渡す。当意即妙な受け答えに、会場からは笑いや感嘆がおき、当時を知らぬ者もまるでその場を疑似体験したかのような気分になる。それはまさしく臨場感。知らぬ間に「巻き込まれる」感覚であり、全国の教室や体育館で高校生たちも感じてきたのだから、と思いを馳せる。

ヤンキーインタビュー、講演に始まった事業の展開はさることながら、正社員の採用、協賛パートナーの拡大と、すべてに縁があったのだと思う。もしかすると、それ以外なかったのかもしれない。出会いと縁に感謝して、掴んで、切り拓いて、恥ずかしげもなく大声で「Choose Your Life!」を、あなたとともにこれからも叫び続ける。それが、誰かの明日と、今日の元氣になると信じて。

2024年2月、大阪府教育委員会との間で、大阪府立高校生の在学中および卒業後のキャリア・就労支援の充実を目的として連携協定を締結しました。2024年度より大阪府立高校にて、教育現場、行政、そしてハッシュダイソシヤルに関わる企業や大人と密に連携しながら、高校生が主体的な進路選択を行うためのサポートや、キャリア教育プログラムの提供を行う予定です。



2023年度のハッシュダイスクールの活動を、日頃お世話になっている先生方や寄付者の皆さま、協賛企業の方へご報告すべく、2024年2月17日にDMM.com本社ビルで実施しました。『伝え方が9割』の著者である佐々木圭一さんにご登壇いただき「伝えたいのに、なかなか伝わらない」といった悩みについて参加者の方と一緒に考える機会をつくりました。ハイブリット開催でのイベントには、合計102名がご参加くださいました。

01 ハッシュダイ企画会議 with スカパーJSAT



2024.01.20-01.21

中高生が独自の視点やアイデアを出しながら企業の動画制作チームの一員となるプログラム「ハッシュダイ企画会議」をスカパーJSAT株式会社と実施。施設見学後、参加した中高生10名が3チームに分かれ、スカパーJSATの魅力を伝える動画を企画し提案を行いました。優勝したチームの動画案を元にしたPR動画を、参加者もディレクションやイラスト作成に関わりながら制作中です。

02 大阪府教育委員会との連携協定を締結



2024.02.02

03 ハッシュダイスクール大感謝祭

2024.02.17

いろいろあったな!?

HASSYADAI social NEWS 2023

HASSYADAI social 設立3年目となる2023年度も、たくさんの出会い、ご縁、そしてハプニング!?!がありました。これまでの事業報告に掲載できなかったプロジェクトやイベント、そして HASSYADAI social の positive! physical! playful! なニュースをお届けします。

江戸三大祭「神田祭」で御輿を担ぐ!



ほぼ日 糸井さんにお誘いいただき、神田祭に「担ぎ手」として参加。持ち前の当事者意識(!?)で、朝から夜まで、ずっと担ぎ続ける8名のメンバー。「最後まで大きい声出してくれたのが一番助かったよ」とお褒めの言葉を頂戴し、持ち前の元気を存分に発揮し活躍できました!

インターン生がジョイン!



参加を決めてくれたかっきーと、勝山・高宮の3人で、桂駅の美味しいオムライスを食べ握手したのです。

森本の好きなおにぎり論争勃発!?

森本が好きなおにぎりの具はきつと「ツナマヨ」だ!と想像した吉田と笑佳。実際は「明太子」が好きらしいです。

オフィスに掛かっているバナーが一新!



絶対的守護神! ハッピーバースデー!

ZENKAIの絶対的プロジェクトマネージャーである「たかみー」こと高宮の誕生日をZENKAI運営メンバーでお祝い!おめでとう!

GO TO 2024!?

official news 08

キャリア教育プログラム提供についてDエンタープライズ様との連携が開始!

official news 09

HASSYADAI social初のドキュメンタリー本『人生は選べる』発売開始

日経ビジネスクロスメディアの元編集長であるジャーナリスト篠原匡さんによる HASSYADAI social の活動を追った『人生は選べる Choose Your Life —— 「ハッシュダイソーシャル」1500日の記録』の発売が開始しました。はじめて出会った2020年1月から、私たちだけでなく、現場の声を丹念に聞き取っていただき、出来上がりました。この本が、ひとりでも多くの方の人生をあかるく、あたたかく照らすものになりますように。



2023/04

/05

/06

/07

/08

/09

/10

/11

/12

2024/01

/02

/03

official news 01

キャリア教育プログラム提供について西濃運輸様との連携が開始!



official news 02

『騙されない為の教科書』配布開始!!



official news 03

HASSYADAI Teachers' Forum 開催!

オフライン・オンラインのハイブリッドで実施したフォーラムは、約3000人の方々から申し込みをいただきました。

official news 04

『騙されない為の教科書』目標数10万部の配布完了!!



燕三条にみんなで社内研修に!

2日間、メンバーで充実した時間を過ごしました!某メンバーの無邪気なだけ迷惑ないびき、東京への帰路で終電30分前まで駆け込み掻き込んだラーメン。いつもそれぞれの場所でがんばるメンバーとの共通の思い出がたくさん増えました。



official news 05

ミアヘルサグループ様とのキャリア教育プログラム3期生の募集を開始!

働きながら、保育士に関する資格を取得することができるだけでなく、引越費や家賃の補助といった充実した支援をミアヘルサ様に用意いただき、「経済的な理由で保育士の道を諦める18歳-24歳の若者」への支援体制を作っています。

18歳の成人式の準備、始まりの日!

今年度より加盟した新公益連盟の合宿で出会ったイシノマキファームの方々にお誘いいただき、石巻へ。会議室をお借りし、吉田と三浦で行った成人式の企画会議。思えばここから着手し始めたのです。



official news 07

大阪府教育委員会との連携協定を締結

詳しくはp.22-23へ

めったに集まらない社員メンバー全員がオフィスに集合!



営業チーム、初めての全員集合!

沖縄で迎えたリアルでの初対面は珍事件ばかり。社会の窓を開けたまま講演し、高校生に指摘され、照れる勝山。移動手段だった玉城の車からでっかいGが出てくるなど、思い出盛りだくさんでした。

official news 06

キャリア教育プログラム提供について日新火災海上保険様との連携が開始!



あなたのおかげで
Choose Your Life!

HASSYADAI socialの代表を務める三浦宗一郎、勝山恵一。「Choose Your Life!」を掲げ、全国の若者たちに自己決定のきっかけをつくり続けている彼ら2人自身の「きっかけ」となった「恩人」との対談をお届けする本企画。それぞれのルーツを知る旅ようこそ…!

聞き手 / 岡山史興 (70seeds)

杉浦大輔 × 三浦宗一郎

サッカー部監督・バンドマン



仕事、音楽、初期衝動：

人生の全てを教わった人

みんなを元気にする
人との関わり方を教えてくれた
三浦さんの「恩人」として今回ご紹介
いただいた杉浦さんは、高校時代から
のつながりだそうです。

三浦 まさしく、僕のルーツです！高校
1〜2年生のとき、サッカー部の監督
でお世話になって。卒業後も石巻の
ライブハウスでライブを見てもらっ
たり、大事なタイミングでいつも相談
に乗ってもらったり。

杉浦 社会に出てから色々な人に出会
い、見てきたと思うし、その中で紹介
したい人として僕を選んでくれたこと
がうれしいですね。たぶん苦渋の決断
だったんじゃないかな(笑)。

—(笑)。東日本大震災の年に出会った
このことですが、杉浦さんから見た当
時の三浦さんの印象はどうでしたか？

杉浦 僕が生徒として見ていた彼は、
ものごとに対する熱量が頭一つ抜けて
いた。周りのスタッフやコーチ勢もみ
んなそう言っていて。僕らが一番心配し
たのは、突き抜け過ぎて一人でどこ
かへ飛んで行かないかという部分でし
たね。当初は想定通り、抜きん出てい
る彼についていけないメンバーがいて。
雰囲気が悪いときも見てきたし、チー
ムが上手くまとまらないと悩んでいる
葛藤している彼も見てきた。どう打破
するか一緒に相談したのを覚えていま
す。

三浦 サッカー部に入ったときめっちゃ
くちや意識高かったんで、がんばりた
かった。がんばれないヤツが許せなく
て、そうしたら自分が自分を避けるよ
うになってました。それを誰にもバレ
たくないから何とかしていただけ、あ
る日の部活終わりに杉浦さんに呼ばれ

指導者、社会人、バンドマン：
僕のすべての顔を見せたよ(笑)。

三浦 まさにあの2年間を振り返ると、
人としての土台のようなものができ
ていく。ただ土台だけでは生きてい
けなくて。就職して当時の仕事に限界
を感じていたとき、2014年のGW
だったんですが被災地の石巻へ連れて
行ってもらうって、支援活動もしました。
あのタイミングで視点を上げてくれて
いたのも、やっぱり杉浦さんでした。

杉浦 覚えてるもん。お前にもっと色
んなものを見せてあげたいって、俺の衝
動で声をかけた。別に、宗一郎がそ
のとき悩んでいたからとかではなくて、
離れても連絡は取っていたけど、全然
熱量が落ちてないんだなと感じたから、
早い段階で外の世界を見せてあげた
かった。リアルなものを求めたときに、
被災地支援活動が持ったことでした。

三浦 今の僕の行動も、思い立ったら
すぐ行動する、衝動ですもんね。だか
らこそ18歳のあのタイミングで、石巻
のライブハウスに連れて行ってもらっ
て言葉だけじゃなく音楽という、言語
じゃない衝撃をもらったのは良かった。
「CHOOSE YOUR LIVES #18歳の
成人式」を作ろうと思った、原点とな
る体験です。

杉浦 俺の指導者としての顔、社会人
の先輩としての顔、そしてバンドマン
としての顔。すべてを見せられたかな。

同等以上のパンチを
返し続けてくれるのが、
杉浦さん

—当時のお二人がいたから今のよう
に人格形成されていると思うのですが、今

杉浦 (あのお前は)何に對して
もキレたもんな。あきらめないよう
にアドバイスしないと。三浦
さんときを見ていた杉浦さんは、三浦
さんという言葉をかけたんですか。

杉浦 どういう言葉だったかは正直あ
まり覚えていないけれど、「宗一郎(※
三浦)らしく」と話していたと思う。

当時、「しなやかにいけな」というキャ
プションが彼の中で燃え上がりす
ぎて、苦しんでいた。でもそれは彼が
悪いんじゃないから、「そのまま行け」
とまずは言ったよな。そして副キャプ
テンに刺激をしたかな。宗一郎に
「ちょっと待て」とは言わず、進んで行
く彼に、付いて行けるメンバーの育成
へシフトしたのは覚えてる。宗一郎に
はほとんど覚えてないですよ。あとは、
経験をいっぱい積ませて卒業させれば
良いかなと思っていた。

三浦 自分としては熱意のギャップは
すごく感じていたけれど、周りからの
リスベクトはあまり感じていなかった
し自分も周りをリスベクトするという
チャンネルが当時はなかったと思いま
す。みんなを元気にしていく杉浦さん
を見ながら、人との関わり方をマネし
て覚えていました。

—当時の様子って、今の三浦さんの姿
から想像がつかないですね。

杉浦 アハハハ！本当？そうか。

—今は周りに對しての配慮やリスベク
トもあるし、部活時代のことがあった
から、今があるんだらうなとすごく思
いました。

杉浦 俺から見たら全然変わってない
けどな(笑)。

三浦さんを見て、どんなイメージですか。
杉浦 成長したかは別として、人物像
は全然変わってない。宗一郎と関わる
ハッシュタグイソーシャルのみなさんが、
どんな行動範囲が広がったり、深み
が深かったり、人生そのものが変化して
いるのを感じている。多分それって、
彼の何が良くなったとかではなく、彼
そのままの言葉にできない魅力だと思
う。取り囲む関係者の人たちがニコニ
コ笑ってれば、彼は成長してるんだ
なと感じて、お腹いっぱいになれる。
それ以上は求めてないです。

三浦 僕から見ても杉浦さんは変わっ
てないですね。去年の4月には、東京
でのライブに行かせてもらいました。

杉浦 自分は音楽で人生形成されて、
苦しい思いも、良い思いも何度もして
きた。俺の通りに生きなさいというわ
けではないが、生き方を教えてあげた
い。選択肢や引き出しを多く持ってお
けと。こんなヤツがいたと、覚えてい
てもらえれば十分です。お前が仕事を
辞めるときも、決意を報告しに来たよ
な。全然止める気はなかった。もう「次
の挑戦します」って感じだったし。む
しろ「良いな、行け」と思った。

—三浦さんが、外の世界を見るきっか
けになったのが杉浦さんなんですか。

三浦 今となつてはお互い全然違う場
所にいるはずなのに、杉浦さんは僕の
「こんなことに悩み、ワクワクしている
んですよ」に對して、同等以上のパン
チを返し続けてくれる。バンドという
持ち場があり、やっていること自体と
いうより、そこでの爆発力がカッコい
い。自分もちゃんと挑戦し続け、杉浦
さんみたいに後輩の挑戦にも「良いね」
と言えるおとなであり続けたいです。

あなたののおかげで Choose Your Life!

小林誠司 × 勝山恵一

HASSYADAI 創設メンバー

第二の人生をともにスタート

道が変わっても幼馴染のような人

レジ袋をビジネスバッグにする男と
メモがひらがなの男

小林さんと勝山さんはもうだいぶ長い付き合いだと伺いました。

勝山 小林くんは「Choose Your Life」を始めるきっかけになった「同志」なんです。2015年に、大阪の京橋に営業研修で降り立って、そこで初めて僕は小林くんと会った。研修なのに唯一カバン持ってなくて、コンビニの袋を下げてたのが小林くん（笑）。結構強い第一印象ですね。おふたりはどう仲良くなったんですか。

勝山 シェアハウスにずっと一緒に住んでた。小林 当時の恵ちゃんはガキ大将のようなイメージで、みんなを引っ張ってくれる存在でした。ただ気性も荒くて、自分は多分全員と結構言い合いのケンカをしてるんですよ。恵ちゃんは絶対折れない、アツいやつ。

「たしかにアツいですよね（笑）。仕事の面はどうだったんですか？」

小林 自分ともう1人のメンバーよりも1週間ほど後に、恵ちゃんと同じ営業を始めました。それで、彼は初月で1位を取り、翌月

ているんですが、ハッシャダイソーシャルではない道へ進んだのは、どういう背景があったんですか。

小林 辞めた当時、ヤンキーインターンになって、僕はリゾートバイトの方へ部署移動になったんですが、ヤンキーインターンへの思いが強すぎて、同じ熱量で別事業に取り組みなかった。自分たちが当初叶えたかった未来はある種認められて、役割を終えたような感覚があったんです。改めて何をやりたいか考え相談したうえで、その決断は「Choose Your Life」だね、やりたいならやってみたらと、背中を押してもらい辞めることになりました。会社としてのフェーズも変化している時期でしたね。

— 京都での営業時代から、東京でヤンキーインターンを立ち上げ苦業を共にしたあと、それぞれそこを離れて自分の道に行きつつ、今こうして、「勝山さんの恩師」のような形で来てもらっています。離れてからも親交はあったのでしょうか。

勝山 わりと定期的に会っています。2015年に営業職としてのキャリアをスタートしたのが、ある意味「新たな勝山」の

は全国でも1位を取っちゃった。あるとき、彼の小さい営業メモが落ちてるのを見たことがあって、気づいたことや学んだことなんか山盛り書いてあって驚いたのを覚えています。影の努力を見たわけですね。

小林 はい。恵ちゃんは元々コミュニケーション力も高いし、センスがすごい、天才だと言われていた。けれど実は、努力の量が違う。数字を出すために裏付けられた努力量が、圧倒的に自分と違ってたんです。メモがひらがなばかりなのも衝撃でしたが（笑）。それからライバルというよりも尊敬できてかつ、ついていきたい同志になりましたね。仕事に対しての考え方・あり方に気付かされました。それがちょうど、一緒に東京へ行く直前くらい。

共同生活で見たお互いの強みと学校を作る夢

— その活躍の仕方って、まさにヤンキーインターンが目指していたものですよ。

勝山 ヤンキーインターンという構想が僕の頭にあったかと言われたら、正直なかった。スタートなので、そこから自分の新たな人生を作り上げていた時期をともに過ごした小林くんとは幼馴染のような感覚です。

小林 自分もです。地元を出たこともなかったけど、異業種へ飛び込み、ゼロから一緒に作ったので。

— ハッシャダイって、チーム感ありますよね。神輿をみんなで担ぐ感じ。仲間がいるからがんばってきても、違う道に進むとなるとき、どんな気持ちでしたか。

勝山 僕は正直、あまり違和感なくて、全力で応援という感じ。小林くん含め3人が辞めたときって、ハッシャダイにも人が多く入り、目まぐるしく変化している状況だった。

小林 僕も違和感はなく、後押ししてくれるだろうと思ってました。同志として感謝しています。寂しさって縁がなくなると感じたときに現れるもので、この人間関係はなくならないだろうという気持ちで根底にあった。

恵ちゃんにはそのままでもいい

— 「Choose Your Life」を始めた2人として、さらに前へ進むフェーズにある、今の

とりあえず目の前の目標達成に必死で、それしか考えてなかった。他のメンバーに「学校を作りたいね」とずっと言われて、みんなで考えて。ただそのときもまだ、ぼんやりとしていました。

— 勝山さんから見た小林さんは、どういう感じ？

勝山 シンプルにめちゃくちゃおもしろいですよ（笑）。僕の家で「ハムスター」を持ってきて良いですか」っていきなり言い出して、阪急電車で大阪から京都まで、段ボールにハムスターを入れて本手に持ってきたり。僕の家の冷蔵庫に、勝手にマウスピースを入れて保管したりとか。あと、僕にはない力もあります。数字に強くて、計画的。僕は感情と感覚で判断してしまうので、それだけでは失敗するかもしれない博打的なところを、目標を立てて下支えしてくれていた。個人レベルでの営業ではなくチームとして育てるのは、僕には絶対できなかったですね。

一生なくならない家族であり、戦友

— 小林さんは今、違うところで営業職をされ

ハッシャダイソーシャルをどう見えていますか。

小林 事業会社として、伸ばすスピードや、恵ちゃんの意思決定の速さが本場にすごい。ハッシャダイソーシャルは旧株式会社ハッシャダイの思いをアップデートして、ヤンキーインターンをレベルアップさせています。社会的意義のある活動で、本当に世の中を変えていけるなという印象です。恵ちゃんをほめて、何かもらいたいわけじゃない（笑）。

勝山 ありのままでもいいけれど、自信を持っている活動だからこそ、届ける人たちの期待に応えたいというか。絶対に成し遂げたいという達成欲と、仲間とより良い組織にしたい気持ちが強すぎて、プレッシャーになるのかな。

— 不安やプレッシャーを抱えている様子は、外からじゃイメージできないですよ。最後に、これからの勝山さんに期待することを、小林さんからお伺いできればと思います。

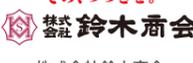
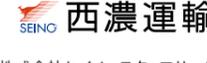
小林 恵ちゃんにはそのままでもいいですね。今話してくれたことがすべてで、ハッシャダイソーシャルに反映されている。三浦さんとの息もぴったり。そのまま自分らしい形で、とにかく元気やってほしいです。



HASSYADAI socialの 活動を支える皆さま

私たちHASSYADAI socialの取り組みは、皆さまからのご寄付ご支援に支えられています。
2023年度、私たちとともに「ひとりひとりの“元気”をあきらめず」、活動をサポートして下さった
法人をご紹介させていただきます。(敬称略・五十音順表記)

パートナー企業のご紹介

 株式会社アドウェイズ	 ウチダ商事株式会社	 株式会社URAKATA	 大塚製薬株式会社	 株式会社オールドルーキー
 株式会社鈴木商会	 株式会社セイノースタッフサービス	 株式会社タイムー	 株式会社タカラトミー	 テルヤ電機株式会社
 株式会社Dエンタープライズ	 トヨタ自動車株式会社	 日新火災海上保険株式会社	 ミアヘルサ株式会社	 ヤマト電機株式会社
 株式会社ユーザベース	 株式会社ロツテ	 ワイズネット株式会社		

VOICE 法人パートナーの声



私たちテルヤ電機は、今年創業100周年を迎える、電気設備と制御機器を販売する専門商社です。「やってみなはれ」と「仕事も遊びも一生懸命」をキーワードに企業活動を続けております。

一度きりの人生だったら楽しまなくちゃ損です。カッコいい大人を目指してもらいたと思いますし、選択格差に悩んでいる若者たちに少しでも夢と希望と勇気を届けられるように、これからもHASSYADAI social様と一緒に行動してまいります。

江川和宏様/テルヤ電機株式会社 代表取締役社長

VOICE 個人パートナーの声



2020年に番組「ガイアの夜明け」で取材させていただいたのをきっかけに、勝山さん&三浦さんに魅せられっぱなしです。最大の魅力は「明るさ」と「突破力」。見ているだけで、こちらが勇気ももらえます！でも今は、2人の思いを継ぐ若者たちが増殖中で、より面白い組織に成長していることを嬉しく思っています。熱くて、涙もろくて、自分にも他者にも正直に動く若者たちが、本当に日本を変えてくれそうです。先日、目の当たりにした「18歳の成人式」で、その思いを強くしました。今後もずっと応援しますし、取材も続けさせて下さいね！

植木浩美様/映像ディレクター

ご寄付・ご支援のお願い

「Choose Your Life!」のメッセージをより多くの高校生や若者へ届けるため、
ご寄付でのご支援をお願いしております。
いただいたご寄付は、講演やプログラムを無償提供するための活動費、運営費などに活用いたします。
ひとりひとりの“元気”を諦めず、より多くの高校生や若者へ活動を、機会を、出合いを
私たちHASSYADAI socialとともに届ける仲間になりませんか。

01 継続寄付による支援

毎月のご寄付で高校生若者の“元気”を支えるマンスリーサポーターを募集しております。下記QRコードもしくは「ハッシャダイソーシャル 寄付」で検索のうえ、READYFORサイトにアクセスいただき、お申し込みください。

お申し込みはこちら!



ハッシャダイソーシャル 寄付

02 今回限りのご寄付での支援

お好きな金額での単発のご支援もお待ちしております。まずは、下記QRコードよりお名前・ご連絡先などの情報をお送りください。いただいたメールアドレスに、振込先口座情報をお送りいたします。

まずはこちらからご連絡ください!



URL <https://social.hassyadai.com/donationform>

HASSYADAI socialについてもっと知る

ドキュメンタリー本を読む



ハッシャダイソーシャルを題材にしたドキュメンタリー書籍、ジャーナリスト篠原匡さん著『人生は選べる Choose Your Life —「ハッシャダイソーシャル」1500日の記録』が2024年3月19日に発売されました。若者、学校、企業の方々など、多くの関係者にご協力いただき、設立から現在に至るまでの私たちが見てきた景色、いま大事にしていることをまとめていただきました。ぜひご一読ください。

SNSをフォローする

ハッシャダイソーシャルの活動について、各SNSでリアルタイムで更新しています。また、メディア掲載のお知らせや、イベント情報についてもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

随時更新中!



X

f

n

Spotify

団体概要

名称	一般社団法人 HASSYADAI social
所在地	〒106-6224 東京都港区六本木3丁目2-1 住友不動産六本木グランドタワー24階
設立	2020年1月
代表理事	勝山 恵一 三浦 宗一郎
理事	上田 祥子 松田 悠介
従業員数	5名(2024年3月)
HP	https://social.hassyadai.com/

